

# メディア教材作成を通して

中国語学科 3年 上野 香緒里

私達は、9月にゼミの一環で行われているメディア教材の作成のために上海へ行きました。

このメディア教材とは、中国語学科の一、二年生の授業で使用したり、オープンキャンパスの中国語学科体験授業などで使用するDVDのことです。今年のテーマは上海の交通ということと、船・バス・鉄道の三つの班に別れ、私達の班は3年の市川、常盤、山本、私、4年生の石原さんの五人で、バスについてのメディア教材を作成しました。

## ■ 日本での準備

まず、メディア教材を作るにあたって前期セミナーの期間中に事前準備をしました。8月6日に横浜で高速バスや長距離バス等の事業を手掛けている横浜シティ・エア・ターミナルにお邪魔して映像撮影の練習やインタビューをし

ました。夏休み中ほどのような教材に仕上げる

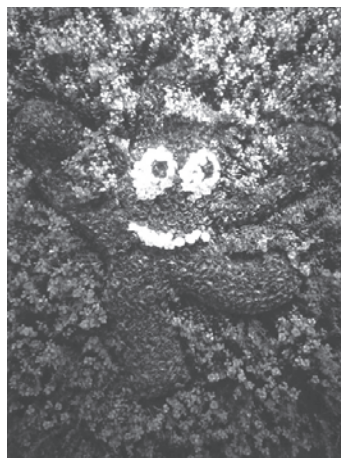
のかを考えました。土台となっていくことなのかを決めるのはとても大変でした。何を伝えたいのか、何を伝えたいのか、意見は出てもどれも納得できず、話し合いを重ねました。結果、来年2010年におこなわれる上海万博がバスに及ぼす影響を中心として作成していくこととなりました。テーマが決まってからは、調べなくてはならないことが沢山出てきて、上海のバスとはいったい日本とどのような点が違うのか、2010年に行われる上海万博がバスに及ぼす影響はあるのか等を調べていきました。インタビューネットや書籍で調べてみると、万博によりバス路線の拡大が行われていることがわかりました。しかし、初めてメディア教材を作成するということ、現地へ行ってみたいとわからないことが多く、事前準備が充分であったとは

いえませんでした。

## ■ チャンスは一度だけ

上海へ行ったのは9月8日から12日の四泊五日でした。一日目と最終日はほとんど移動だったので、実質三日間で撮影をしなければなりません。撮影中は現地の大学生の田小亮さんがサポートをしてくれて、上海長距離バス総合ターミナルや上海南長距離バスターミナル、東方明珠タワー中心を走っている観光バスの発着地などで良い映像を撮ることができました。現地では、映像の撮影、インタビューを主にしました。私はカメラをまわしたのですが、日本で練習してきたとはいえ、失敗したらまた上海にきて撮りなおすことはできないという緊張のなか撮影をしていました。撮影中苦労したことは多かったです。映像がぶれてしまっただけでは使

ことができないので、毎回三脚を立てて撮影をしたのですが、最初のうちは直ぐに三脚を立てて準備することができず、撮影チャンス逃してしまふということがありました。それにバスは動いているものなので、撮ろうと思った瞬間にはもう手遅れなんてこともしばしばありました。また、カメラを動かすときはゆっくり一定の速さで動かさなければならぬのに、途中で力が入り速さがかわってしまい、撮りなおすこともありました。けれど、だんだん要領よく撮影できるようになってきたせいか、自分が納得できる映像もたくさん撮れました。例えば、日本ではなかなか見ることができない充電式のバスが、停留所で、充電をする瞬間を撮った映像は、私が納得できた映像の一つです。同じ映像は二度と撮ることができないぶん、よい映像が撮れたときの喜びは大きかったです。上海では



(9月9日撮影／上海万博のマスコットキャラクター「海宝」)

トラブルこそあったものの無事に撮影を終えることができました。たくさん撮ったと思っていた映像は、約四時間分しかなく、十五分の映像を作るのに足りるのかという不安と、良い映像を撮ることができたという達成感をもって帰国しました。



(9月10日撮影／上海南長距離バスターミナル)

### ■ 絵コンテの重要性

帰国してからが本番で、編集作業が私達を待

っていました。まず、撮ってきた映像をパソコンで確認しました。音が入っていないかったらどうしようなど、様々な不安はありましたが、きれいに撮れていて一安心しました。次に、事前にしっかりと決まっていた流れがなくなって作成することができなかつた絵コンテを作り始めました。この絵コンテがとても大変でなかなか仕上げられませんでしたが、絵コンテとは、紙の上で映像を1カットごとと並べて行き、そのカットごとにナレーションやテロップを決めていくもので、初心者私達にとって映像をどのように並べていったら良いのかも分からず模索しながら進めました。4年生の石原さんのアドバイスもあり、なんとか絵コンテを完成させることができました。編集は全て絵コンテを基に進めていきました。まず映像を並べて、次にナレーション、テロップを付け加えていきました。しっかりと作ったと思った絵コンテも、映像とナレーションのつじつまが合わなく、もう一度書き直すこともありました。編集作業は全員初めてだったので、手際よく進めたとは言えませんが、二か月の編集を経て、なんとか「公共汽車／上海交通を支えるバス」が完成しました。完成後は、十二月十二日に行われた、「メディアリリック」という、東海大学、文教大学、神奈川大

学の3大学合同の映像発表会に参加して、お互いの映像を観て評価し合いました。私達の班は、「上海のバスについてよく分かる映像になっている。」等の評価もありましたが、「何を伝えたいのかわからない。」等の指摘もありました。色々な指摘、評価を受け、今後に繋げていく良い機会になりました。

#### ■ 作成を通して

今回のメディア教材の作成を通して感じたことは、十五分の映像を作るのはこんなにも大量の映像と時間が必要なのかということ。十五分でも大変なのに、私達が普段みている一時間のドキュメンタリー番組などはどれだけの映像と時間を使っているのだろうと考えさせられました。また、大学生活の中で学生だからこそできる経験ができてよかった、そして、来年のメディア教材作成の時には、主体となる後輩たちに今回の経験を活かしてアドバイスをしていきたいということです。撮影とは関係ないけれど、私は今までしっかりと中国語を勉強してこなかったのが、言葉がわからずとても苦労しました。これからはもっと勉強しなければならぬと思う良いきっかけになったと思います。今回のこの経験は、これからの私にとつ

て、何かに挑戦するときの励みとなっていくと思います。この機会をくださった孫先生、そして協力してくださった教材開発室の方をはじめ

め先輩方、現地でお世話になった先生、学生の方に感謝の気持ちを伝えたいと思います。



(9月11日撮影／上海・新光ホテルにて／打ち上げの集合写真)